

第7回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

平成30年2月8日(木)10:00～11:35

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室（広島市中区国泰寺町一丁目6番34号）

3 出席者

懇談会構成員

団 体 名 ・ 役 職	氏 名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

（計8名、欠席1名）

事務局

経済観光局長

観光プロモーション担当課長、課長補佐

株式会社JTB中国四国営業企画課長、地域交流推進課ディレクター（計4名）

4 議題

(1) 懇談会のとりまとめ修正案（ピースツーリズムの円滑な推進に向けて）について

(2) その他意見交換

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

3名

7 会議資料名

資料1 ピースツーリズムの円滑な推進に向けて～ピースツーリズム推進懇談会とりまとめ(修正案)～

資料2 ピースツーリズムの円滑な推進に向けて【資料編】～ピースツーリズム推進懇談会とりまとめ(案)～

資料3 ピースツーリズムの円滑な推進に向けて【とりまとめ概要（案）】

8 発言の要旨

（原田座長）これまで色々なご意見をいただいていたが、今日は節目の会合となる。ご意見を踏まえた上で、今年度のとりまとめを行いたい。

《事務局から資料に基づき説明》

◆懇談会のとりまとめ修正案（ピースツーリズムの円滑な推進に向けて）について

（前田委員）皆さんの修正意見を踏まえて、きれいにとりまとめている。きれいに整理されたことにより、また新たに修正した方がよいと思う部分も出てきている。細かな部分は、また別途事務局に連絡するとして、主なことを発言したい。4ページの「来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて」という項目は、環境づくりというタイトルに対して、場所を設定するという内容でよいのか気になった。また、こうしたらどうかという提案をしたい。8ページの「市民等が関わる環境整備」について四角囲みの中の説明文は、市民と共に環境整備に取り組んでいくということだけでなく、そのプロセスに市民が参画することの必要性の意見が懇談会であったと思うので、それを踏まえた表現にした方がよい。9ページの「ルート設定にあたっての基本的考え方」について四角囲みの中の説明文3行目の「来訪者が静かに考えることができるよう、またニーズに応じて選択できるよう考慮する」について、全てのルートにおいてこれらに考慮しなければいけないということではないと思うので、このようなことについても考慮するという表現でよいのではないか。

（古谷委員）言葉の定義などきちんと整えられていて、内容はよいと思う。

話はそれるが、資料館本館の白い囲いが3年前からあの状態で、今年の7月にリニューアルオープンと聞いていたのが伸びてしまった。これだけ時間をかけただけの成果を反映させることが大事ではないか。

（平尾委員）全体に関しては、すごく論理的に整っていると思う。前回懇談会での意見を踏まえ、新しく加わった「ピースツーリズムとは」という部分は、一番大事な部分の一つだと思うので、ここに関しての皆さんの感想を聞いてみたい。敢えてこうしているのだと思うが、「広島」という言葉がこの部分に書かれていない。これは「広島」をいう言葉を使わないことでピースツーリズムという概念を普遍的なものにするためにこうしたのか、それとも他の意図があるのかについて伺いたい。

（辻委員）ピースツーリズムとはという定義を作るのが一番難しい。ピースツーリズムとは何かと聞かれたときに、この文章で説明できるかどうか。ピースを伝える手段としてツーリズムを用いることについて、皆さんが疑問に思われるところを払拭していかなければならない。短い文でもよいので、広島は平和を希求しており、それを国内外からの来訪者に見てまわっていただくことをツーリズムと称しているというような、ストレートな表現の方がよいのではないか。少し持って回ったような表現になっている。環境整備を行うことがツーリズムなのか。少し検討の余地があると思う。

（津村委員）ピースツーリズムの定義の部分の冒頭に「平和をテーマに訪れる」という表現があるが、平和をテーマに訪れる来訪者だけが対象なのか。取組概要のところ対象として外国人旅行者や修学旅行生を挙げており、このような方々は確かに平和をテーマにしていることが多いだろうと思うが、もっと広くとらえて、例えばビジネス目的で訪れた人も空き時間にこのようなところ回ってもらなど、裾野を広げていくこともツーリズムの効果の一つではないか。

（阪谷委員）最終的に皆さんのご意見の最大公約数を文章にしていきたい。「ピースツーリズムとは」について、平尾委員からご質問のあった「広島」という言葉を入れていない理由については、そもそもピースツーリズムはどこもやっていない、広島が初めてのケースであり、被爆の

実相等を伝えるということも含んでいるので、「広島」と書かなくても広島発のツーリズムである。究極的には、ピースツーリズムが世界のいたるところで起きる可能性もあるということを見ると、今あえて「広島」という言葉を入れなくてもよいのではないか。ピースツーリズムの要素については、国内外からの来訪者に平和への思いを共有していただくことがピースツーリズムの基本だと思う。そして、そのために被爆の実相等を伝える。来られた方に効果的かつ円滑に周遊していただくための環境整備とは、単なるルート設定ではなく、委員の皆さんからご意見のあったように、例えば市民が現場でサポートしながら平和について伝える、説明板など被爆の実相について書いたものを準備する、スマートフォン等によりARも使って見てもらうようにする、なども含めた環境整備である。ピースツーリズムを、ピースとツーリズムに分けて考えるとそれぞれの言葉に引きずられてしまう。ピースツーリズムという一つの言葉として、そこに含まれる要素が被爆の実相等を伝えることであり、また円滑に周遊していただくための環境整備であって、究極の目標が国内外からの来訪者に平和への思いを共有していただくことだという観点で整理している。ただ、このピースツーリズムの定義は、今このように整理しているが、これから実際に動かしていくことによって内容が進化していく可能性はあると思う。未来永劫この定義とするのではなく、だんだん進化して、絞られて平和に特化した中身になるかもしれない。

(事務局)「広島」という言葉が定義の中にないことについては、広島だけに特有のものではないのではないかと、広がりを持たせた方がよいのではないかとということから、このようにしている。辻委員の言われた、環境整備だけではないのではないかとということについて、環境整備という言葉は、周遊を促すために必要なソフト・ハード両方の様々なものの整備という意味を込めて使用している。津村委員の言われた、平和をテーマに訪れる人だけではないのか、裾野を広げていく必要があるのではないかとという点について、広島に来た人全てにここを巡ってくださいというのではなく、まずは平和をテーマに訪れる人に思いを共有していただきたいということからはじめていきたいということからこの定義としている。

(原田座長)「平和」が2つ重なっているの、そこは整理した方がよいと思う。

(辻委員) 平和をテーマに訪れるというところは省いて、“国内外からの来訪者に「平和への思いを共有していただく」ため、市民・行政・関係機関などが一体となって、「被爆の実相等を伝える」とともに、・・・”と強調したい部分をカッコ書きしてはどうか。環境整備の部分はもう少し考えてもらいたい。

(平尾委員) ツーリズムは、“イズム＝思想”なので、定義が行動についてのものでよいのか。イズムとして掲げるものがあり、イズムの下に何をしていくかという取組、行動が被爆の実相を伝えることや環境整備を行うことだと思う。もう少し、イズムをしっかり出した方がよいのではないかと。そのために何をするというのも入ってよいと思うが、まずはこうあるべきものかというのがあるとよいのではないかと。

(前田委員) ネイティブに意見を聞いてはどうか。

(原田座長) ネイティブに意見を聞くことについては、レストハウスで外国人旅行者を対象にアンケートを調査を行っている。

(古谷委員) 平和をテーマに訪れるという部分を省くことに賛成である。39年の通訳ガイドの経験から、そういうことは後から感じるものである。あれだけの惨禍を受けたことを知り、そう

だったんだ、平和は大事だということを感じて、広島ががんばれと言ってくださる方が多い。平和をテーマに訪れるというのは当たらない。

◆とりまとめ概要のうち、ピースツーリズム推進に際して今後留意すべき事項について

(原田座長) ピースツーリズム推進に際して今後留意すべき事項について、前回の懇談会で骨子を諮ったが、中身を充実させ整理している。

《事務局から資料に基づき説明》

(原田座長) 前回の懇談会で、この内容については概ねよいだろうということだったので、表現方法や字句の訂正などの整理をしたものである。議論に入る前に、整理にあたっての思いなどを説明させていただきたい。まず、平和と文化の一体的な推進による広島の発信について、私は文化財団の設立に関わり、その時に基本的には平和文化センターの文化関係事業を文化財団に移し、文化事業は文化財団、平和文化センターは国際平和センターの名称がふさわしいと思っている。組織を2つに分けるのは、事業が拡大してやむを得ない面もあるだろう。しかし、両財団の連携がうまく行っているのかということについては疑問である。例を挙げると、現代美術を通じて世界中の優れた作家を顕彰する制度であるヒロシマ賞は、今年度で10回目になる。3年ごとに実施しており、1回あたりおそらく8000万円程度の経費がかかっていると思う。これが、平和とどのような繋がりを持っているかというと、残念ながら平和事業は関わっていない。資料館にその旨の展示もなく、受賞作家を資料館に案内するくらいである。実施内容は、作家の個展を開催しているが、入館者は6000人くらいだろうか。相当な経費をかけていながら、発展性に乏しい。広島にしかできない現代美術を通じて発信する機能として、今のままでよいのか。そういうことを踏まえた上で、平和と文化が一体的な事業展開ができないか。現代美術館のヒロシマ賞だけでなく、広島国際アニメーションフェスティバルも、世界四大アニメーション映画祭の一つとしてそれなりの地位をしめていると言われていても、一般市民に浸透していない。アニメーションに関心の高い人は参加しているだろうが、一般の市民には伝わってこない。この二つは文化財団が所管してがんばっている。平和も文化も市民局の所管であり、この両者のタイアップは同じ局中で対応していけると期待している。現代美術館には今まで以上にしっかりとした体制をつくり、市民により身近な事業展開を図ってほしいと願っている。一過性のイベントで次につながらなければ、やっただけで終わってしまうのではなく、次の世代につなげるような事業展開ができないのか。二番目の資料館と関連する施設については、現地調査でご覧になったように、本川小学校、袋町小学校、被爆資料の一部を展示している旧日本銀行広島支店がある。一方、江波のシュモールハウスは既に資料館の附属展示施設として運営されている。こういったものも加え一体的な事業推進を図るとよいのではないかと考えている。教育委員会とも協議をしたが、教育委員会において平和教育として展示施設を管理するのは無理ではないかと感じている。すぐ所管を変えるのは難しければ、もっと平和部門からも力を注ぎ、内容をより充実したものにしていく必要がある。地下遺構の保存管理も、今年度事業として頭出しをしており、すでに他都市の調査を始めているようである。来年度どこまで具体的に進めることができるのか。被爆75年を目途として、この地下遺構を公開展示することを予定していると聞いている。資料館内の展示は、市内のあちこちに点在していたものを集めて展示しているに

すぎないが、地下遺構をしっかりと見てもらうことは瞬時に消えてなくなった街がそこによみがえってくるものであり、これ以上に訴えかけてくる展示内容はある得ない。ぜひ、館内と館外の展示を一体管理できるような体制がほしい。松井市長も被爆 75 年にあたる 2020 年には、オリンピック・パラリンピックで日本に来られる多くの方々を広島へお迎えしたいという気持ちを持っておられるのであれば、被爆 75 年の 8 月 6 日を目途としてぜひ展示公開できるような方策を進めていただきたい。点でなく面で出てきた被爆資料より重いものはない。広島大学元理学部の校舎について、先日、担当課長と話しをしたが、なかなか前に進んでいないようである。全体を残すと 30 億かかるというが、それだけの経費をかけて残すことに市民の合意を得られるのか、財源をどう確保するのか、内容についても各委員の意見が十分に集約されていない。今年は 4 月からほとんど動きが見えなかったのだが、このほど非公開で検討会を作って今からスタートすると聞いている。民間の被爆建造物には残してほしいと発言しているから、早急に公開に向けて自ら何ができるのか整理が要るのではないかと。旧陸軍被服支廠は県が 3 棟を管理し、1 棟は国が管理しているようだが、これもどうにか 1 歩前に進み始めていると聞いている。いずれも大きな被爆建造物であり、積極的な保存活用の推進を図る必要があるのではないかと。本館休館中の展示のあり方については、皆さんからたくさん意見をいただいた。市民から色々なご意見があるのに、それをきちんと返していない、そこが課題ではないかとのご意見もあった。広島市が過去から実施してきた平和事業の例示をしているが、これらの一部は資料館の館内展示にもある。原爆ドームがどのような遺されてきたかや I C J の違法性の審理についても、短い文章では書かれている。被爆後の歴史の中で、これらは極めて重い事業であり、スミソニアン博物館の問題は全米を揺るがすような議論がなされ、結果的には原爆投下の正当化論にまで結びつくような議論があり、反対運動が起こり、残念ながら米国上院の反対決議で中止になっている。原爆ドームの世界遺産化も、国との調整や世界遺産委員会の審議の過程でも色々なことがあった。そういう過程も展示していないと、原爆ドームが世界遺産になったという結果だけでは理解していただけないのではないかと。原爆ドームの世界遺産化は 165 万人の署名を集めて国会請願し、市民や各種団体、連合の方々の力をいただいて、県内 86 市町村すべての議会、県議会を含めて 87 の地方公共団体の議会で世界遺産を推進するという意見書を採択してもらった。こういう事業はこれから先にもない市民運動の成果ではないのか。色々な意味で市民の圧倒的な力をいただいてやってきた事業だということを多くの人に知らせる必要がある。民間との協働体制の構築においては、平和行政に関心を持つ市の職員も多いので、この懇談会の中身を一步でも二歩でも前進させるために、まず職員の中にしっかり素地を養成することが必要である。平和行政の担当職員だけでなく、多くの職員の力を結集することが、市民に対して示せる大きな力になるのではないかと。拠点施設については、渡部委員からは旧市民球場跡地あたりにテントでもよいので作るべきとのご意見があったが、非常に大きな課題であり、懇談会で結論がすぐ出されるものではないかもしれない。今後の体制づくりの中でじっくりと考えていく必要がある。滞在時間の延長については、皆さんで議論していただいて、今後の事業につなげていくことは可能ではないかと。色々な発言をいただいてとりまとめたが、これを進化させる原動力がうまく機能していくかどうか。今後も関わっていくことができれば、各事業の具体化に向けて牽引力を持つことにつながるのではないかと。

(平尾委員) 先日、原田座長と渡部委員と一緒におりづるタワーに行った時、色々とお話を伺う

中で、お互いに見えていないことがたくさんあるなという印象を持った。色々な人が色々な形で、平和について考えながら取組をしていることは、ある意味で素敵なことだと思う。この方向だけが平和だということではなく、色々な取組があることが改めて分かった。市民・民間等が主体的に参画できるような体制づくりにおいては、情報交換、互いの現状共有の取組が大事だと感じる。

(辻委員) 一旦たくさん課題が挙がったが、すべてについて急にはできないので、1 歩ずつでも進めて、継続していただきたい。

(前田委員) この資料は一番肝要な部分になるが、よくまとまっている。3 (1) は、この懇談会で出た意見でウエイトが大きかった部分だと思う。

(古谷委員) 1 (2) については、平和だからこそ享受できる芸術、スポーツは、広島がきちんと力を入れていくべきところだと思う。成功事例が香川県にある。ベネッセハウスというのがあり、直島や豊島での現代美術の展示の仕方や建物がすばらしい。安藤忠雄さんなどが関わっている。欧米からだけでなく、台湾の富裕層も来ている。食事にも有機野菜などを使ってあって本当にすばらしい。広島からガイドに行くことも多い。広島には、現代美術館だけでなく、県立美術館や、建築が素晴らしいひろしま美術館があり、めいぷる〜ぶで巡ることができ、この3館をまとめたプロモーションをしていくことが有効だと思う。ベネッセの成功理由の一つは情報発信力だと思う。写真や、コンテンツのテキストの作り方、翻訳などすばらしく、パワフルな情報発信力があると思う。広島にはよいものもあるが、その部分の洗練度が足りない。

(津村委員) 地下遺構について、本館の下を発掘したところ、黒こげの地層とたくさんの生活用品等の出土品が発掘された。それらについては、東館1階の仮設展示のところに展示している。それをさらに広げ、旧中島地区の街並みそのものを発掘展示してはどうかという考えの下、被爆75周年である2020年8月6日までを目標に検討を進めている。今年度は他都市の事例の視察調査を行った。来年度は、どこを試掘したらよいか、展示に適する場所はどこか、どのような展示方法が適切なのかということ等についての調査・検討する予算案を計上している。来年度の調査・検討を踏まえ、再来年の平成31年度に具体的な計画づくり、試掘をし、平成32年度の8月6日までの設計・工事というスケジュールでの実施を目指している。2 (4) に関連して、本館工事中の仮設展示について、多くのご意見をいただいている。実物資料の展示をもう少し充実させたいという考えがあり、予算案に計上している。東館地下1階のどこかで集中的に実物資料の展示を考えている。初お目見えのものも入るかもしれない。今の仮設展示をより充実させ、少しでも被爆の実相の分かりやすさを強めたい。本館工事の白い囲いについては、何の工事をしているのかという表示と、耐震工事と展示更新についてより詳しく説明する表示板の設置準備を進めている。何の工事をしているのかの表示については、遠目から見ても分かる大きさで日本語と英語により南側と北側に表示する。詳しい説明表示については東館向かい側に掲示する。今月中～下旬に設置できるよう準備している。

(阪谷委員) これらを今から進めていくには相当エネルギーがいると思うので、覚悟しながら取り組むが、悲観的にならず、楽観的に進めていきたい。行政がすべてを行うのではなく、市民・民間等との協働体制を構築し、その中で進めることにより、色々な課題を解決できると思う。プロモーションは非常に重要であり、このピースツーリズム推進事業は観光政策部の観光プロモーションが担当している。ぜひ、ピースツーリズムについてしっかりプロモーションして、

多くの方に知っていただき、来ていただく仕組を構築したい。

(原田座長) 直島は、見事な事業展開をしている。文化の関わりという点について、前回、文化も含めた平和行政の推進について話をした。2020 年のオリンピック・パラリンピックが終わった段階で、国の文化事業に対する助成制度は相当落ち込んでくるのではないかと。来年度・再来年度が広島文化行政をどう発展させていくかの瀬戸際になるのではないかと危機感を持っている。被爆体験の継承については、被爆体験の証言をできるのは私どもの世代が最後であり、どのような形で次の世代につなげるのかは大きな課題である。基町高校の生徒が被爆者の体験をつぶさに聞いて、絵を完成させるというとても重い仕事をしてくれている。被爆体験をつぶさに聞いて受け止めて絵に描いて残すということは、大変なことだろうと思う。これまで 120 枚くらい絵が描かれ、私の体験も絵に描いてもらっている。私が被爆したのは広島駅で、全焼地区内において奇跡的に助かった一人である。当時の光景を目の当たりにした者からすると、先般の新聞記事にあった本館入口に使用する写真は、この写真でよいのか疑問に思っている。悲惨な被爆体験をしっかりと伝えることが問われていると思う。私は、広島駅の元の駅舎があったおかげで、熱線と爆風からはどうにか免れ、立ち上がって逃げることができた。早く逃げないと後ろからどんだん火の手が追ってくる状況で、数多くの人々が立ち上がることもできないまま亡くなっていった中で、かろうじて逃げ伸びてきた体験を伝えることが大事だと思う。被爆直後の場面と、すぐそばまで火の手が迫っている場面を高校生が描いてくれた。この足元には、たくさんの死体が転がっていた。しかし、誰一人として助けることができないままに逃げた。まだ生きているかもしれない人々を踏んで逃げた。想像を絶する、極限の状態で生き延びてきた。なぜ自分だけが助かるようなことをしたのか、自分を責めて生きてきた。このような話をすると、高校生はたくさんの死体を並べて描いたが、私が耐えられなくなり、死体をほとんど消してもらった。それではいけないと思い、今、もう一枚描いてもらっている。このような悲惨な体験があるからこそ、広島のメッセージが国内外に伝わっていくのではないかと。もう一点、高齢者のいきいきポイントという制度があり、手帳が配られる。生きがいになる事業に関わっていけば、ポイントがもらえ、1 ポイント 100 円で計算され口座に振り込まれる。ピースツーリズムのボランティアをしてもらう方法として参考になると思う。

(渡部委員) 私の思いは一つである。すべての市民、行政、民間事業者も一つになりヒロシマをきちんと受け継いで発信していく、発信にあたっては一方的に発信するだけではなく、国内外から来られた様々な方をお迎えする中で共に平和について、これから何が自分達にできるかということについて考える機会にもなるものであってほしいと願っている。それが、広島の持っているミッションを次の世代に伝えていくことになると思う。その環境整備、仕組ができればよい。やっていく中で、柔軟に変えていけるような、中長期の取組をぜひ広島市に期待したい。

(原田座長) 今日いただいたご意見を踏まえ、各資料の整理を事務局で行う。

◆その他意見交換

(前田委員) ピースツーリズムという言葉は、普遍性を持った言葉なのか、広島独自で使うものなのかによって、言葉遣いが規定されていくと思う。資料 1 の 6 ページ上四角囲み 3 行目の、「被爆の痕跡や人を通じて」という部分の“人”が何を意味するものか理解しにくい。被爆体験がある人なのか、もっと全般的な市民と来訪者との交流ということを含めているのか。

(事務局) スマートフォン等による発信ではなく、フェイス・トゥー・フェイスで来訪者に発信するという意図で、“人”と記述しているが、分かりにくいようであれば、修正のご意見をいただければと思う。

(渡部委員) ピースツーリズムとは何なのかというのはすごく大切だと思う。ピースツーリズムという新しい言葉の概念をきちんと作っていくことは大事だと思う。私は、ピースツーリズムの言葉の概念は、広島オリジナルとして考えて作り上げていけばよいのではないかなと思う。

(事務局) ピースツーリズムは、イズム＝思想の部分があるのに、やっていくことしか書いていない、被爆の実相等を伝えることと環境整備を行うことは思想とは違うのではないかなとのご意見があった。また、環境整備という言葉について、受け入れ側のハード面だけの整備と読めるという意見、それから、幅広い来訪者にきちんと平和への思いを共有していただくよう冒頭の「平和をテーマに訪れる」を削除したらどうかとのご意見があった。思想の部分について、皆様からの意見を踏まえ、考えてみたい。

(渡部委員) 広島の平和思想をここに表してもよいかなと思う。

(原田座長) 6月の初会合以降、皆様からいただいた意見を整理してみると、110項目ほどあった。各施設の表示板の1つをとっても、1箇所の経費が30万円とし、それが100箇所あれば3,000万円になってしまうので簡単に片付かないし、表示の文言の作成、位置、英訳の問題など、多くの作業が起こってくる。ここまでとりまとめたいただいた事務局にはお礼申し上げる。

広島市の今後のあり方を考え、市民の皆様と協働して新しい事業を展開することにつなげたい。委員の皆様から大きな力をいただいたことに対して、改めて感謝したい。

(経済観光局長) 委員の皆様におかれましては、昨年6月以降、7回の懇談会、4回の現地視察と、多忙な中熱心に御議論いただき、感謝申し上げます。今年度の懇談会で取りまとめたいただいた内容は、今後、実行に移していきたい。

昨年、原爆ドームの世界遺産登録20周年事業の一つとして、原爆ドーム周辺でイルミネーションを実施した。その点灯式をした際、現地に来られていた原田座長から、開始の前にせめて黙祷くらいしてもよかったのではないかなとの指摘をいただき、観光部門で平和関連施策を実施するにあたって考えが至らなかったことを反省した。今回、平和施策と観光施策をどう融合させるか、さらには文化施策とどう融合させるかということについて、大きな指針を与えていただき、厚くお礼を申し上げます。

これからが勝負であり、私ども経済観光局が先頭に立ち、庁内の関係部局としっかり連携を図って、着実に進めて参りたいと考えている。

ピースツーリズム推進懇談会は次年度も継続するよう予算案に計上している。ピースツーリズムの取組を進化させていくため、引き続き、皆様のお力添えをいただきたいと考えており、宜しく願いしたい。